

24年 盛岡商工会議所 新年交賀会



全国的にもレベルが高いことで知られる盛岡芸妓の伝統芸。
その継承のため2年前に見習い芸妓になった2名が、
今月晴れて「盛岡芸妓」として誕生します。

特集

盛岡芸妓文化の

継承を目指して

関東以北一の芸どころ

盛岡芸妓とは、踊りや長唄、常磐津などの芸事を身につけ、料亭の座敷などで芸の披露とおもてなしをする女性のことです。

昔から芸事が盛んだったという盛岡のまち。中でも花街だった八幡町や本町には料亭のほかに長唄や踊りを教える師匠の家があり、この町で生まれた女の子は子供の頃からこれ



現役「盛岡芸妓」の見事な伝統芸も披露された

らのお稽古事に通って芸を習得しました。やがて彼女たちは「半玉」という芸妓の卵の時期を経て、一人前の「自前芸者」に。ちなみに八幡町と本町はそれぞれ幡街、本街と呼ばれたため、盛岡芸妓も幡街芸者と本街芸者に分かれていたそうです。

一人前になってからもお稽古を続けた盛岡芸妓たちは、明治25年から盛岡に滞在した常磐津林中から常磐津を、また彼の口添えで明治31年に名古屋から来盛した初代若柳力代から日本舞踊や芝居の指導を受ける機会を得、さらに芸を磨きました。また林中と親交を深めた茶人で文人の橘正三（不染）が、今や盛岡芸妓の代表芸となった「金山踊り・からめ節」を作詞するなど芸能振興に尽力。その結果、明治41年の東北6県連合共進会演芸の部で優勝するなど、「盛岡は関東以北一の芸どころ」と評価されるまでになったのです。

このような盛岡芸妓の芸はその後も継承され、盛岡の観光にも貢献。その結果、昭和36年に福子姐さんが、49年に都多丸姐さんが市勢振興功労者として表彰されました。

芸道に 終わりはない

しかしここ十数年の間、世情や経済情勢の変化などで全国的に花柳界が衰退しています。盛岡でも芸妓の活躍の場である料亭が次々と廃業し、盛岡芸妓の数も減少。現在現役で活躍するのは、てる子姐さん、よう子姐さん、治子姐さん、あき子姐さん、あき子姐さん、てい子姐さんの5人で、平均年齢は60歳を超えています。



てい子姐さん



あき子姐さん



治子姐さん



よう子姐さん



てる子姐さん

「私たちが見習いの頃は、ビデオやテープなどというものはなかったので、踊りも長唄も三味線もすべてその場で覚えるしかありませんでした。お稽古もほとんど休みがなく、年末31日まで稼いで翌日の1日からお稽古に行っていましたね」とてる子姐さんは当時を振り返ります。

それだけに、お姐さんたちはすべて芸道を極めた人たちばかり。そのため日本舞踊の四代目若柳力代を襲名したよう子姐さんのように、弟子をとって指導している人もいます。

「芸道に終わりはない。今でも、毎



最近やりがいや幸せを感じるという知子さんと、盛岡芸妓の継承に意欲的な礼奈さん

日が勉強です」と自分を厳しく律するてる子姐さん。「盛岡の地で育まれた、格調高き盛岡芸妓の技と心をつまでも絶やさぬよう、次世代に伝えていくのが私たちの使命」と言い切ります。



現在でも現役を続ける、てる子姐さん

その「次世代」に当たるのが、平成22年3月に盛岡市が見習い芸妓として公募採用した佐藤礼奈さんと藤村知子さん。二人は今年3月まで、後継者育成に取り組む盛岡市から就業支援を受けながら、お姐さんたちに厳しい稽古をつけてもらってきました。そして支援が終了した4月からは市内の民間企業に籍を置き、週5日の稽古に励んでいます。

「お姐さん方についてお座敷にもあがれるようになりましたが、踊りも接客もまだまだ未熟で、緊張の連続です」とは知子さん。しかしそれだけにお客様から「上手になったよ」と声をかけられると、やりがいや幸せを感じるそうです。一方の礼奈さ

芸の継承と 後継者育成のために

そんな二人が一人前の盛岡芸妓として独り立ちできるようにと、今年3月「盛岡芸妓後援会」が設立されました。今月には「お披露目の会」が開催され、この場で二人は晴れて一人前の盛岡芸妓となります。てる子姐さんは、「イベントなどでもいい。盛岡芸妓の芸を披露する場が増え、盛岡芸妓について皆さんにもっと知っていただくことを願っています。それが、伝統芸の継承と後継者育成につながるのですから」と幅広い支援を呼びかけています。

取材／「SANA」企画編集委員会



2年間の見習い芸妓を経て、今月から晴れて「盛岡芸妓」として活動する礼奈さん(上)と知子さん(下)